



株式会社サンシャインシティ
代表取締役社長
鈴木 誠一郎
すずき せいいちろう



「灯火親しむ候」

例年になく夏の暑さにフウフウ言っている処へ巻頭言のご依頼を頂いた。『図書館通信』という冊子であるから、図書館に絡む想話でも

記せ、というのが編集者のご意向かと拝察したが、どうも期待に沿えそうにない。来し方を振り返って、図書館にはあまり縁がなかったことを改めて思い知ったからだ。せいぜい締切りの追ったレポートの為に文献を漁った程度で、およそ静寂の中で読書に耽るなどという高尚な過ごし方をしたことがない。そういうことなので、せめて本に関連する拙文を認めることでお許しを頂くことにした。

活字になる頃は流石に秋風も立つて、「灯火親しむ候」ということである。本との出会いは七、八才の頃、確か「少年少女文学全集」といった類の本で『十五年漂流記』等の冒険小説や偉人伝等を夢中で読んだのが始

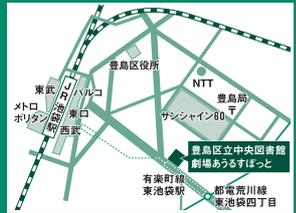
と しょ かん つう しん と しょ かん つう しん



トピックス

- 巻頭言 (株)サンシャインシティ 代表取締役社長 鈴木 誠一郎・・・1ページ
- 図書館と私 上池袋図書館運営専門員 大根田 菜穂子・・・2ページ
- ザ・レファレンス 郷土資料館学芸員 秋山 伸一・・・2ページ
- 生涯の一冊 豊島区図書館経営協議会委員 大橋 直美・・・2ページ
- 自主研究グループ紹介 昭和史研究会・・・3ページ
- 赤い鳥文学賞の終了にあたって(1) 小峰 紀雄・・・3ページ
- 豊島区伝統工芸 貴金属装身具 島 功・・・3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ラフォーテナビル四階・五階 TEL七〇八四四一
FAX 〇三三九八三二七八六
電話 〇三三九八三二七八六
ホームページ http://www.library.toshima.tokyo.jp
発行日 ● 平成22年10月



新航路 [16]

閲覧席の入替制について

今年の6月から中央図書館5階の閲覧席47席を、3時間ごとの入替制にした。評判は概ね良好である。開館してから3年、この間に多くの利用者の方から「席に座れない」とお叱りを受けた。館内に閲覧席を増やすことは、難しい状況である。そこで入替制にして、多くの方に座っていただくというわけだ。一方で、図書館の

資料を使って調べ物をしているのに時間に縛られるのはおかしいというご意見もいただいた。しかし、1日あたり3,000人、夏休み期間中は4,000人を超える来館者がある状況では、入替制もやむなしとの結論に達した。今後とも多くの皆さんに利用していただけるよう改善に取り組んでいきたい。

Current & Encounter

「強者と弱者」

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

人間は強くもあり、弱くもある。新聞報道等によると、最低賃金で働くよりも、生活保護を受けた方が収入が高くなる可能性があるという。制度と実情は時間が経つと誤差が生じてくる。その場合、対象は不断に確かめねばならない。健康な人なら、失業してもやがて再就職の道が拓けてくる。すべての人間が自立してゆくことが本来なのだ。

* * *

福祉国家は社会主義と並んで、二十世紀の希望であった。ソ連や中国の実情が分かるにつれて社会主義、共産主義への幻滅が広がったが、福祉国家は、アメリカや西欧の目標となった。サッチャーリズムといわれた英国、レーガノミクスといわれた米国の社会改革（そして日本では中曽根内閣の国鉄解体がそれに当たるのか）は、いずれも福祉制度の行きすぎを是正する改革であった。

「人間は考える葦である」と同様、強くもあれば弱くもある人間の姿を、われわれは生涯見つめていかなくてはならない。人間社会の愛や連帯を語ることは楽しいが、死ぬときは独りなのだという現実も改めて考えてみる必要があるだろう。

人間は強くもあり、弱くもある。新聞報道等によると、最低賃金で働くよりも、生活保護を受けた方が収入が高くなる可能性があるという。制度と実情は時間が経つと誤差が生じてくる。その場合、対象は不断に確かめねばならない。健康な人なら、失業してもやがて再就職の道が拓けてくる。すべての人間が自立してゆくことが本来なのだ。

* * *

福祉国家は社会主義と並んで、二十世紀の希望であった。ソ連や中国の実情が分かるにつれて社会主義、共産主義への幻滅が広がったが、福祉国家は、アメリカや西欧の目標となった。サッチャーリズムといわれた英国、レーガノミクスといわれた米国の社会改革（そして日本では中曽根内閣の国鉄解体がそれに当たるのか）は、いずれも福祉制度の行きすぎを是正する改革であった。

「人間は考える葦である」と同様、強くもあれば弱くもある人間の姿を、われわれは生涯見つめていかなくてはならない。人間社会の愛や連帯を語ることは楽しいが、死ぬときは独りなのだという現実も改めて考えてみる必要があるだろう。

や経営に関するものが多くなって、些か心が乾燥気味かも知れない。夏休み、畳に寝ころがって読んだ『漱石全集』を遠からずじっくり読み返してみたい。はたして今何を想うのであろうか。サンデー毎日になった時の楽しみに大切に託つてある。

1948年、神奈川県生まれ。早稲田大学商学部卒業。71年三菱地所(株)入社。主に企画、総務部門を担当。2009年6月より現職。

生涯の一冊
(17)

「ふたりとにひきかすむいえは」
直江みちる・作 今井俊・絵
発行 福首館書店

豊島区図書館経営協議会委員
大橋 直美

「幸せの記憶」

娘が幼いころ、我が家の本棚には100冊くらいの絵本が並んでいました。どれもこれも、学生時代に児童文学を学んだ私が娘に読ませたい、読ませなくてはならないと思っ
て集めた本ばかりでした。私は、小さいころから本を読むことが三度のご飯よりも好きで、
娘にも是非そのようになってほしいと願っていました。ですから、動機付けになればと思います、
娘が幼いころから読みかかせを始めたのですが、それがいつしか私自身の楽しみになって
いました。ベッドの中で、ソファに並んで、時には車の中で。ところ選ばず、子供と一
緒に絵本のなかの言葉を、リズムよく口ずさむことは何にも増して楽しい時間の過ごし
方となりました。勝手に曲をつけたり、言葉を伸ばしたり。いつしかおはなしは自分た
ちふたりだけのおはなしのようになっていました。そしてある時期から、寝る前にベッド
のなかで、娘が選んだ本を3冊だけ読むことが習慣になりました。我が家の100冊の

蔵書のなかで1年365日、毎日、毎日、他の2冊はその時々で違うのに、なぜか娘が
必ず持つてくる、「うみのそばに ちいさな いえがありました。」で始まる一冊、それ
がこの本です。おじいさんが森の中に新しい家を作って、おばあさんといぬとねこと一緒
に引越すまでのおはなし。さいごにおじいさんとおばあさんのしあわせそうな寝顔の絵
を見ても、満足したかのような表情で眠りにつく娘を見るにつけ、私もこの本が大好きに
なりました。つい先日、あれから長い月日が経って、娘に「なぜこの本がそんなに好きだっ
たの？」と、ずっと気になっていた娘のこの本に対する思いを初めて聞いてみたのですが、
聞いてみて娘のその本に対する思いはあまり重要ではなかったのだということに気がつき
ました。私はこの本もさることながら、この本を読んでいるときの娘のきらきらした笑
顔が大好きだったのです。自分にとって特別な存在である娘にとって特別な本は、こうし
て私にとっても特別な一冊となりました。そして一冊の本が私に運んでくれた幸せなひ
と時は、今思い返しても私の生涯のなかでも格別なひと時なのです。

図書館と私 ⑤

上池袋図書館運営専門員
大根田 菜穂子

記録メディアと図書館 -粘土板の時代から-

電子化の時代である。今年は電子書籍元年
とも言われている。そんな時代に、あえて超アナ
ログな記録メディアに思いをはせてみる。紙以前
の記録メディアとしては、甲骨、石板、粘土板、
パピルス、羊皮紙、竹簡・木簡などがある。

私が図書館の歴史を学んだ中で印象に残っ
ているのは粘土板である。19世紀半ば、イラクの
クンジク遺跡で大量の粘土板が発掘された。
そこは建造者がわかっている世界最古の図書館
の跡であった。紀元前7世紀、アッシリアの王、
アッシュルバニパルが設けたニネヴェの図書館で
ある。膨大な量の粘土板には、アッシリアの神々
や宗教、魔術、辞典、そして叙事詩が楔形文
字で刻まれていた。この発見により、世界最古
の物語とされる「ギルガメシュ叙事詩」の全体
像も明らかになったようだ。書記官たちは、記録
を残すことの重みをその手に感じながら粘土板に

丁寧に楔形文字を刻み込んだだろう。それは、
時間のかかる作業だったに違いない。そのような
粘土板が、2,500年の時を経て発見され、解
読されるとは、なんとというロマンであろうか。

電子化が進む今、粘土板の時代とは比較し
てならないほど記録する労力は軽減され、情報量
も爆発的に増えている。そんな時代だからこそ記
憶装置としての図書館の存在がますます重要な
ものになるだろう。私たちがまた情報科学の知識
をもって、デジタルコンテンツを活用できる図書
館司書として人々の役に立てよう、勉強しなく
てはならないと思う。広い意味では、私たち図書
館員もまた記録を未来につなげる一端を
担っている。その点において、粘土板に楔形文
字を刻んだ書記官たちとつながっているのではな
いだろうか。そんなことを思いつつ、パソコンのキー
ボードを打つ日々である。

ザ・レファレンス

—豊島区の歴史・文化がわかる本③—

ご案内：秋山 伸一(あきやましんいち) 郷土資料館 学芸員



豊島区に関わりのある著名人を知る

「豊島区出身の有名人は誰ですか？」

郷土資料館の受付カウンターで数度、しかも
唐突に尋ねられた質問です。ある人物が「有名」
か「無名」かの判断基準は人それぞれですし、「出
身」の意味を「出生地」として理解すれば良い
のか、あるいは「豊島区と関係がある」程度のニュ
アンスで理解すれば良いのか、微妙な場合もある
ので、「それは〇〇さんと××さんです。」と明
るく滑舌よく即答することが難しい質問でもありま
す。ただ、そういう時に『群像 豊島の文化人(ぐ
んざう としまのぶんかじん)』と『群像 豊
島の文化人(続)』の2冊は、私たちの強い味
方になってくれます。この2冊を書庫から持ち出し
て紹介すると、多くの場合「なるほど…」とい
うことで一息つけます。

これら2冊には、豊島区に関わりがある60名
が紹介されています。江戸川乱歩・菊池寛・
夏目漱石をはじめとする作家、鶴田吾郎・熊谷
守一らの画家、北原白秋・野口雨情といった詩
人、そして羽仁もと子をはじめとする教育者など
です。その人物の誕生から死去まで、適宜写
真を配置しながら、生き立ちをたどっていく方法
で記述されています。中には「何でこの人が…」
という場合もあるかも知れませんが、ここで取り上
げられている人物は、原則として、たとえ短期間
であったにせよ、豊島区(地域)内に居住して

いたことが判明しているの方々です。

また、豊島区に関わりのある著名人のうち、
女性のみを扱ったものに『風の交叉点(かぜの
こうさてん) 3—豊島に生きた女性たち』が
あります。この本には、柳原白蓮・川村文子を
はじめ全14名の半生が女性史の視点で紹介さ
れています。いずれも豊島区内に居住し、かつ
女性の生き方に先駆的な役割を果たしたことが、
掲載の基準となっています。先ほど紹介した『群
像 豊島の文化人』シリーズで取り上げている
人物との重複がありますので、2冊を読み比べて
みるのも面白いかも知れません。

もちろん、今回紹介した本の中で取り上げて
いる人物は、豊島区に関わりのある著名人のご
く一部に過ぎず、またすべてが故人です。スポー
ツ選手、職人、芸人、政治家、俳優、学者など
多くの人たちが、今なお現役で豊島区との関
わりを持ちながら活躍しています。こうした人た
ちのことを豊島区との関わりを手がかりに検索する
ことは残念ながらできません。しかしながら、現在
活躍している著名人を、各種の『人物レファレ
ンス事典』を用いて人物名からある程度調べて
いくことは可能です。多くの場合「禁帯出」扱
いであり、本の貸し出しはできませんので、実際
に図書館へ出向いてバラバラとめくってみてくださ
い。

自主研究グループ紹介

中央図書館「地域研究ゼミナール」修了生で、修了後も自主的に研究活動されている皆様をご紹介します。

昭和史研究会

この会は一昨年中央図書館で開催された地域研究ゼミナール「昭和史と東京裁判」講座の修了後、有志によってスタートしました。講師の粕谷一希氏の助言を得ながら自主研究しており、会員は60～80歳代の男性9名と女性6名です。

私達は、戦後の高度成長の中、社会人として仕事・家事・子育てに追われ、昭和という時代を見送って来ました。学生時代は入学試験に出題されない理由で、受験時期の1月から3月に授業で省略されたり、また授業そのものが無くなり自習という形でしか学べなかった「日本史の中の昭和」を戦後65年を経た今だからこそ、改めて見直す事の必要性を感じ、自分なりに少しでも勉強したいと思う仲間が集まりました。

この一年間は、戦前・戦中の主な事件とそれに関わった人物を掘り下げることで、敗戦直後の「東京裁判」に至る経緯を理解し、更にそれは「戦後とは何か」を考え、「日本のこれから」を探るべく、書籍・映像資料の活用、現地見学踏査等により勉強を進めてきました。幸い中央図書館は旧・巣鴨プリズン（現・池袋サンシャインシティ）に近い場所にあり、館内に東京裁判などの図書のコーナーが設置されていて、大いに活用しています。

私達は、いわゆる右派・左派的な考えにはとらわれず、一市民としての自らの気持ちに正直に向き合うことを大切にしたいとの考えから、研究会での課題に一定の結論は求めません。自由なディスカッションによって、他の人の考え方を知ることで、自分自身も学べる楽しさを実感できると信じるからです。

今年度の研究会の課題は下記の通りです。

3月27日(土)10:00~12:00	満州事変(石原莞爾)
4月24日(土)10:00~12:00	二二六事件(北一輝)
5月22日(土)10:00~12:00	支那事変→日中戦争(近衛文麿)
6月19日(土)13:30~15:30	日中アヘン戦争(東條英機・里見甫)
7月24日(土)10:00~12:00	日独伊三国同盟(松岡洋右)
8月28日(土)10:00~12:00	終戦に因んだドキュメント番組、戦争体験者の証言番組、ドラマ等を各人視聴し、感想を一言ずつ述べ、話し合いました。
9月25日(土)10:00~12:00	太平洋戦争開戦前後の日本情勢
10月未定(土)10:00~12:00	第二次大戦前の欧州情勢

昭和史研究会は、中央図書館会議室で活動しています。昭和史に興味のある方は、ぜひ一度、研究会にお越しください。



赤い鳥文学賞 の終了にあたって (1)

赤い鳥の会世話人 株式会社小峰書店社長 小峰 紀雄



「赤い鳥文学賞」は、本年7月1日、40年の歴史に幕を閉じました。同賞は、赤い鳥の会主催（代表：松谷みよ子、後援：豊島区・愛知県半田市）によって開催されてきましたが、同賞に併設されていた「新美南吉児童文学賞」と「赤い鳥さし絵賞」も終了に至りました。赤い鳥の会は、赤い鳥関係の書籍を編集発行していることもあり、今後も継続していきます。「赤い鳥文学賞」を終了するにあたって、この事業と情熱を傾けてきた方々に私なりの想いを寄せてみたいと思います。

赤い鳥の会は、坪田譲治先生を世話人代表として昭和46年5月5日に設立され、その事業の柱として「赤い鳥文学賞」が創設されました。その趣旨は、この賞の制定によって「『赤い鳥』の残した功績を今日に受け継ぎ、児童文学のより豊かな実りを期待する」というものでした。

雑誌『赤い鳥』が、鈴木三重吉主宰のもとに創刊されたのは、大正7年の7月1日でした。創刊に先立ち、「童話と童謡を創作する最初の文学的運動」というブ

【プロフィール】

1938年宮城県に生まれる。早稲田大学第一文学部卒業。小峰書店編集部長を経て、1986年同社長に就任、現在に至る。赤い鳥の会世話人。(社)日本書籍出版協会理事。

リントが配布されましたが、『赤い鳥』は、日本の近代児童文学の歴史を拓く先駆的な運動でした。さらに童画の確立と共に童謡、児童劇、作文、児童自由詩、児童自由画など教育的にも重要な役割を果たしました。

坪田先生は「赤い鳥こそ私の童話の出発点であり、育ての親」であると述懐していますが、「赤い鳥文学賞」を設立された時は、80歳をこえておられ、「10年間は続けよう」ということで始められた事業でした。世話人には、坪田代表の他に鈴木珊吉、巽聖歌、与田準一、小峰広恵の四氏が務め、事務局は小峰書店が担当することになりました。「赤い鳥文学賞」は、「過去一年間に発表されたすぐれた児童文学作品」に贈られましたが、その独自性は選考内容にありました。選考委員は、「赤い鳥」出身の作家、詩人と坪田先生の後輩の作家の方々によって構成されましたが、選考では、いつも真摯な議論が展開されました。本賞は、「赤い鳥」の先駆性を現代に受け継ぎ、現代児童文学の発展に寄与しようとするものですが、40回にわたる受賞作品のそれぞれに、本賞の趣旨が生かされてきたと思います。次回では、「赤い鳥文学賞」の幕を閉じることになった経緯を記したいと思います。

豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。

貴金属装身具

しま いさお
島 功さん



◆ものづくりは原点

要町通りを一步路地に入ると、緑の多い閑静な住宅街が続いている。今回訪ねた伝統工芸士は、貴金属装身具の島功さんである。中に入るとさまざまな工具が置かれていて、物づくりの雰囲気漂ってくる。

貴金属装身具作りは、デザインナーからの仕様をもとにしてパーツを切り出すことから始まる。その後きれいに磨き、蜜蝋等を用いて組み立て、装飾をする。

小さい頃から、ものづくりが好きだったという島さん。貴金属の仕事に携わるようになったのは、高校を卒業した18歳の時のこと。親戚がネックレス等の貴金属装身具を作っていて興味を持ったのがきっかけだ。

今、島さんが作っている作品を見せていただいた。作品は、一つ一つ違ったデザインのアクセサリの上に、細かい装飾を施したものであり、制作過程を一つずつ研究されたまさに何年も積み重ねた職人の技である。貴金属装身具は細かな作業の連続で、「集中するのは大変ではない

のか。」と伺ったところ、「長年やっているし好きなことだからくく自然に集中できる。」とのこと。そんな島さんの趣味は、釣りだ。ただ釣りを楽しむだけでなく、自ら釣竿を作り漆などで装飾する等、自身が作るというこだわりを持っている。ものづくりは、島さんの原点なのだ。また、装身具制作の合間に、彫金を習いに行くと、勉強熱心で今の自分の技術に満足することなく、「もっといいものを作ろう」というものづくりに対する思いが伝わってくる。

島さんが取材中に繰り返し語っていたことは、「伝統工芸の技術を残していくことは大事だし若手の職人にはプライドと自信を持つてもらいたい、現実には厳しい」と言うことであった。手づくりの時代からオートメーション化された量産時代に社会が変わってきた中で、伝統工芸の技術を残していく厳しさを島さんの言葉から感じ、匠の技を残していくことの難しさを学んだ。

島さんも気に入っているという落ち着いた雰囲気のある「千川」。豊島区には伝統工芸の技が残る街が、まだまだたくさんある。



図書館イベント情報

- 各図書館の連絡先**
- 中央図書館 3983-7861
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 巣鴨図書館 3910-3608
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 目白図書館 3950-7121
 - 千早図書館 3955-8361

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月	11月	12月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 (12月のみ19日) 午前11時	★3日・おはなし会+工作 午後2時	★28日・子どもと本をつなぐボランティア団体 (豊島区親子読書連絡会)によるおはなし会 午後2時	★12日・冬のおはなし会スペシャル (パネルシアター・劇など) 午後2時 5階会議室
駒込図書館 (駒込地域文化 創造館)	土曜日 午後3時 (10月9日は休み)	—			★18日・おはなしのはこ クリスマススペシャル (ビッグブックの読み聞かせ、パネルシアター等) 午後3時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時		★24日・すぐもどもえいがかい 午後3時 「パラダイス」(16分)	★22日・ほんのじかん 冬のお楽しみスペシャル (絵本・紙芝居の読み聞かせ) 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※		★24日・さくらんぼえいがかい 午後3時 「しっぽじまんのうさぎさん」(22分) 「ミッキーマウスのたのしいゆめ」(9分)	★15日・さくらんぼクリスマス会(絵本・紙芝居・ パネルシアター・ビッグブックなど) 午後3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★20日・秋のスペシャル映画会 午後2時30分 「冒険者たち」(93分) 対象:小学生以上 ★23日・たんぼぼえいがかい 午後2時 「鬼から」(27分)	★20日・たんぼぼ工作会 (壁飾りのツリーをつくろう) 午後2時 ★27日・たんぼぼえいがかい 午後2時 「いたすらあまんじゃく」(23分)	★18日・たんぼぼクリスマス会(ビッグブックの 読み聞かせ・影絵劇など) 午後2時 ★25日・おはなしたんぼぼ(絵本の読み聞かせ・ 紙芝居) 午後2時
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★27日・かきくけこうさくかい 午後3時 (おりがみでできる! おいしいおべんとう)	★24日・めじろこどもシアター 午後3時 「森のなかまたち」(25分)	★15日・クリスマススペシャルおはなし会 (パネルシアター、ビッグブック・ 絵本の読み聞かせなど) 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分			★22日・ほんとおはなはいクリスマススペシャル (絵本の読み聞かせ等) 午後3時30分

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

◆“文字・活字文化の日スペシャル” ~図書館・おはなし会のご案内~

10月27日は“文字・活字文化の日”です。各図書館で子ども達に向けて多彩な催しを行います。

主催	実施日時・場所	行事名・内容
中央図書館	10/24(日) 午後2時 児童コーナー	おはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル (絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど)
駒込図書館	10/23(土) 午後3時 駒込地域文化創造館	おはなしのはこ 文字・活字文化の日スペシャル (手袋人形、ビッグブックの読み聞かせ、紙芝居)
巣鴨図書館	10/20(水) 午後3時 地下会議室	ほんのじかん 文字・活字文化の日スペシャル (絵本の読み聞かせなど)
上池袋図書館	10/20(水) 午後3時 地下ホール	さくらんぼおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル (絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアターなど)
池袋図書館	10/16(土) 午後2時 ワークルーム	おはなしたんぼぼ 文字・活字文化の日スペシャル (絵本の読み聞かせなど)
目白図書館	10/20(水) 午後3時 地下1階集会室	あいうえおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル (ビッグブックの読み聞かせなど)
千早図書館	10/27(水) 午後3時30分 視聴覚室	ほんとおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル (絵本の読み聞かせなど)

千早図書館友の会主催・千早進歩自由夢月例会

※申込不要。当日、直接会場または集合場所にお越し下さい。

◆千早進歩自由夢(10月例会・史跡散歩) 「染井から巣鴨庚申塚まで歩こう」

日時 10月23日(土)午後1時半
JR山手線・駒込駅北口正面の染井吉野桜記念公園集合。
または、午後1時 東京メトロ有楽町線・千川駅改札でも可

場所 郷土資料館学芸員の案内により染井吉野桜発祥の地「染井」と巣鴨庚申塚など近辺の史跡を散策します。
*参加費は掛かりませんが、交通費については、個人負担となります。
*雨天決行

◆千早進歩自由夢(11月例会・講演会)

日時 11月27日(土)午後1時半開場 午後2時開演~午後4時

会場 千早地域文化創造館・音楽室(地下)

講演 「想い出は歌とともに」
第1部 朗読 はなしのぶの会「いつも音楽があった」倉本 聡 作より
ピアノ 江川 みどり先生
第2部 対談 「富良野塾がくれたもの」
林 建吾氏と富良野塾卒業生

図書館カレンダー

編集後記

今回の「豊島区伝統工芸」の記事は、大正大学からインタビュー生として勉強に来られた方が担当しました。取材から記事を書き上げるまで一生懸命頑張ってくれました。この経験が少しでも役立ってくれればと思います。就職戦線は依然厳しいですががんばれ。(あ)

中央図書館

開館時間
平日 午前10時~午後10時
土日祝 午前10時~午後6時

日 月 火 水 木 金 土

10月	③	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

11月	⑦	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
-----	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

12月	⑤	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白千早図書館

開館時間
平日 午前9時~午後7時
土日祝 午前9時~午後5時

日 月 火 水 木 金 土

10月	③	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

11月	⑦	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
-----	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

12月	⑤	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

○は土日祝 ■は休館日

雑司が谷図書館貸出コーナー

開館時間
平日 午前10時~午後7時
土日祝 午前10時~午後5時

日 月 火 水 木 金 土

10月	③	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

11月	⑦	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
-----	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

12月	⑤	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
-----	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----



【お詫びと訂正】

前号の図書館通信第17号(7月発行)におきまして、以下の誤りがありました。読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

1ページ

“Current&Encounter”の題名

(誤) 伊藤博文侯のごこと → (正) 伊藤博文公のごこと